

1. まちづくりのデザインコンセプト

【東岡崎駅周辺のまちづくりデザインコンセプト】

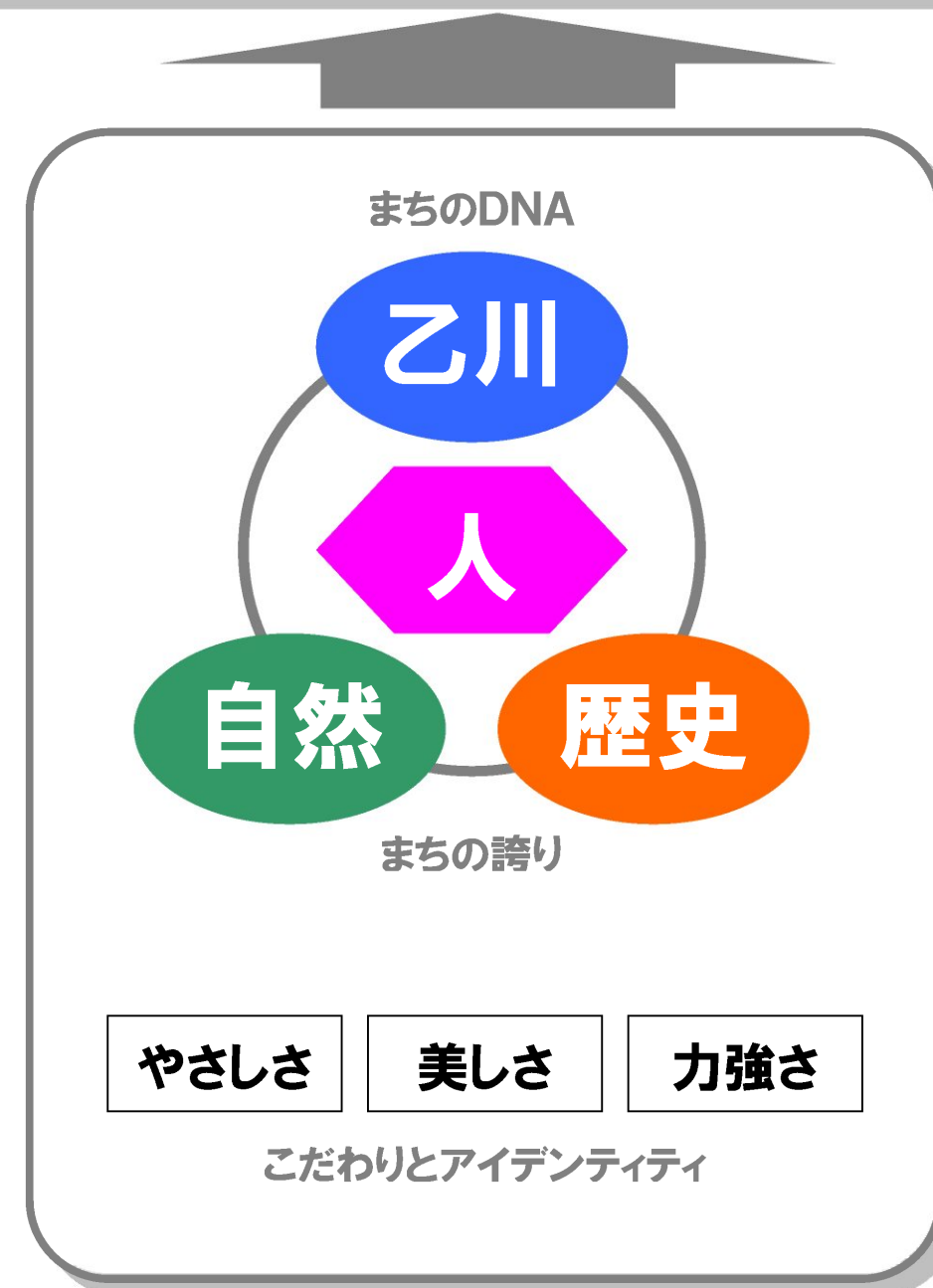
**“自然・歴史・人”そして“やさしさ・美しさ・力強さ”を
なにげなく感じる快適な空間のあるまち**

「自然と歴史」

- 岡崎の個性といえる豊かな自然とそこに育まれた歴史や文化をなにげなく感じることができ心地よい空間づくりを目指す。
- 岡崎の自然や歴史・文化を内外に発信する広域交流の拠点を目指す。
- 周辺の自然性や歴史性をつなぐみどりを創出し、潤いに満ちた都市空間づくりを目指す。
- 特に、岡崎市のシンボルであり、まちのDNAとも言える“乙川”を意識したまちづくりを目指す。

「人」

- 行き交うすべての人々が安全で安心して、快適に利用できるユニバーサルデザインを意識したまちづくりを目指す。
- 来訪者を「ようこそ」と迎え入れるまちの玄関としての空間づくりを目指す。



「やさしさ、美しさ、力強さ」

- 駅の「休憩」、「案内」、「交流」、「連携」といった機能が集約された、人にやさしく機能的で美しい、だれもが快適に利用できる空間づくりを目指す。
- 岡崎の自然や歴史と調和したデザインが、周辺地域の景観づくりの一つの指針となるような美しいデザインを目指す。
- 活気やにぎわいにあふれた力強さを感じ、サステナブルでリジェネレイティブな輝く拠点地区を目指す。

【用語の解説】

ユニバーサルデザイン…すべての人のためのデザイン。年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、さまざまな人に配慮して、はじめからすべての人が利用しやすいまち、施設、物（製品）、環境、サービスなどをつくろうとする考え方。

サステナブル…持続性がある。

リジェネレイティブ…再生、生まれ変わる。

■ コンセプトに係る上位計画 ■

【第5次岡崎市総合計画(H12.3)】

◆将来都市像 **人が輝く、活気に満ちた、美しい都市 岡崎**

【岡崎市都市計画マスタープラン(H15.2)】

◆都市づくりのテーマ

快適と安全を**形**に
自然と歴史を**個性**に
交流を**力**にする都市づくり

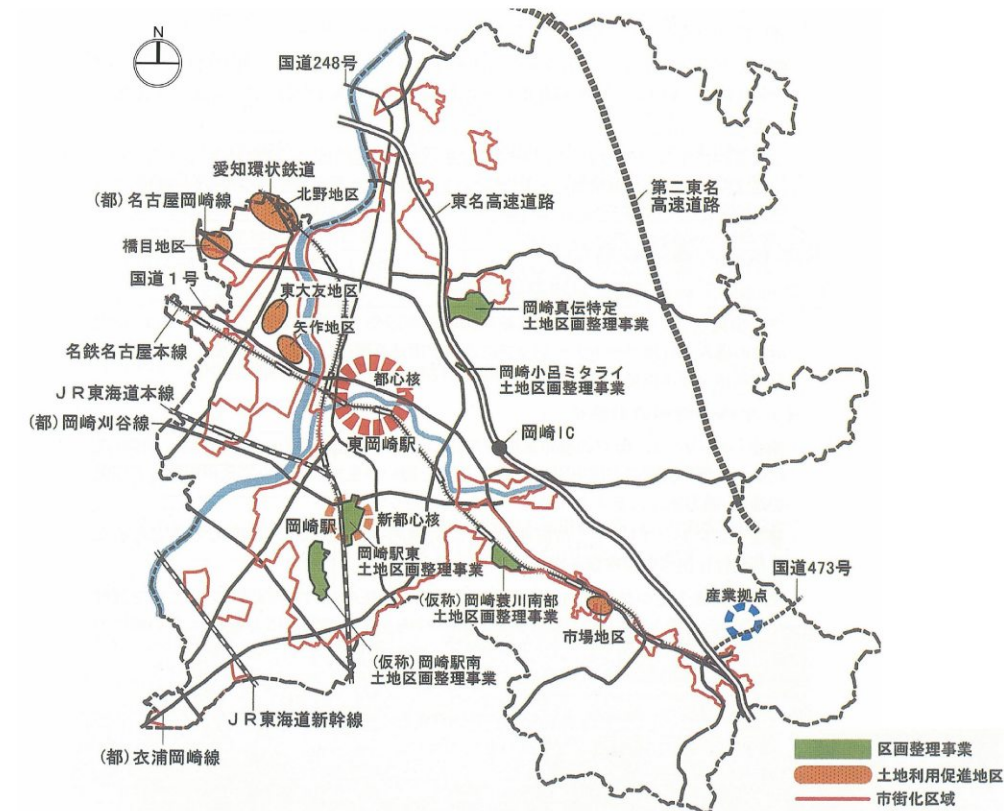
◆将来都市構造での位置づけ・目標

【都心核】：「歴史的・自然的景観との調和に配慮しつつ、商業、業務、文化等の複合機能の導入による「人・もの・情報」等が集積する魅力と活力に満ちた広域交流拠点づくり」

◆地域別構想(中央地域)

【テーマ】：職・住・遊が調和した岡崎の顔にふさわしいにぎわい豊かなまち

- 【目標】：
- 都市内公共交通の充実による安全で安心な交通環境づくり
 - 広域交流空間として複合機能を有する都心核形成
 - 安全、快適な市街地形成に向けた住環境の改善
 - 生活利便性を生かした都心居住の誘導・促進
 - 市街地内の水や緑を大切にしたい潤いのあるまちづくり



【岡崎市都市景観環境基本計画(S63.9)】

◆基本目標

川面に映る緑の街
伝統的ロマンのある街
魅力と潤いのある街

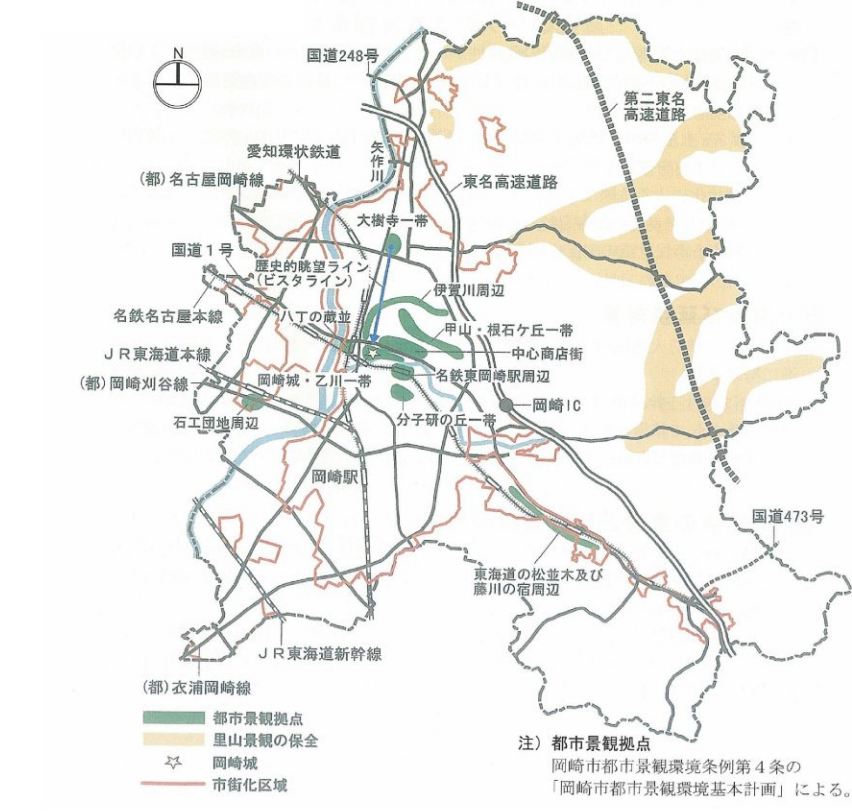
◆都市レベルでの計画(都市景観拠点)

名鉄東岡崎駅周辺

- 「岡崎らしさを表現するシンボルゾーン」として、岡崎の顔として都市の機能を充実させ、美観あふれる地区とする。

乙川堤の樹林、六所神社周辺、竜美ヶ丘周辺

- 「おかざきらしさを代表するシンボルスポット」として、自然と歴史を表現する素材として、周辺地域へ雰囲気を広散させる。



【岡崎市緑の基本計画(H11.3)】

◆緑のまちづくりの基本的なテーマ

豊かな自然と緑が奏でる
ゆとりと潤いのまち...おかざき

◆基本方針

駅前広場周辺や中心市街地の拠点地区

- 人々が集うコミュニケーションや憩いの場、イベント場として、市街地に潤いのある緑地空間を与え、市街地の顔となる多目的広場や、緑豊かで多様な商業地を形成する公開空地やポケットパークづくりを推進する。

◆整備指針

乙川河川緑地や竜美ヶ丘などの丘陵地の緑

- 「地域の特徴ある郷土景観を形成する緑地」として、地域として一体的な景観整備や保全を行う。

六所神社

- 「地域の代表的な郷土景観を形成する緑」として、六所神社の松並木は、歴史的・文化的意義を有する緑の樹林地等の周辺を含めた一体的な保全、周辺環境と調和した緑化による修景を図る。

2. 景観形成の基本方針①「東岡崎駅周辺」

【東岡崎駅周辺の景観形成の基本方針】

1. 地域の自然景観を活かす、調和させる。

- 乙川周辺の自然環境と調和した景観づくり。
(乙川沿いの道路など)
- 明代橋線を介した乙川河川緑地から竜美ヶ丘周辺の丘陵地帯の景観軸を大切にした景観づくり。
(明代橋からのビスタを意識した橋上駅舎、ペデストリアンデッキのデザインなど)
→東岡崎駅周辺の景観構成(次ページ)

2. 自然の素材を活用する。

- 地場産材を活用した、地域全体と調和した景観づくり。
(御影石の舗装、案内板等のデザインなど) →写真A
- 自然の素材を活かした人にやさしい景観づくり。
(木のベンチ、板貼りの天井など) →写真B

3. 歴史的景観や伝統的デザインを活かす、調和させる。

- 六所神社参道の鳥居や松並木と調和した景観づくり。
(駅前広場東端のデザイン)
- 歴史的な建造物をイメージさせるデザインを活用した新しい景観づくり。
(縦格子、傾斜屋根など) →写真C
- 伝統的な石加工技術を用いた個性のある景観づくり。
→写真D
- 歴史的な景観と調和する落ち着いた色彩の景観づくり。
(黒色、灰色、白色、アクセントとしての赤色など)
→写真E

4. 直感的にわかる、安心できる。

- 施設配置が機能的で直感的に把握しやすい景観づくり。
- 必要な場所に絵やピクトグラム(案内用図記号)を用いたわかりやすいサインシステムのある、必要な情報が入手しやすい景観づくり。
- 多くの人が集まり、人の顔が見える、安心できる“たまり”空間のある景観づくり。

■ 市内にある景観づくりのヒントとなる事例 ■

A 地場産材を活かした、舗装、道路施設、案内板



東岡崎駅南線の御影石の舗装、車止め(左)と統一された観光案内板(右)

B 自然の素材を活かした人にやさしいイメージを与える施設



南口駅前広場のバス停のベンチ(左)とギャラリープラザの板貼りの天井

C 歴史的な縦格子のデザインを取り入れた新しい建築物



市役所の新庁舎と自由通路(左)とシビックセンター(右)

D 伝統的な石加工品



伝馬通の彫刻(左)と太陽緑道内の石灯籠(右)

E 歴史的なまちなみで見られる色



岡崎城天守(左)と六所神社山門(右)



八丁味噌蔵(左)と六所神社参道の鳥居や石垣、石柵、板塀(右)

■ 東岡崎駅周辺の景観構成 ■

◆景観の構造をつくる緑の軸、緑の拠点(市のシンボルスポット)

- ①「乙川景観軸」…乙川、乙川河川緑地の緑、隣接する社寺の緑（岡崎公園に続く緑の帯）
②「丘陵の緑の核」…竜美ヶ丘や六所神社に繋がる丘陵地の緑、地域の緑の核

◆地域のイメージを構成する駅前の景観軸

- ③「明代橋線」…中心市街地、乙川景観軸、駅、丘陵の緑の核を結ぶ明代橋線に沿った景観軸
(明代橋から駅舎、駅前広場へのビスタ)
- ④「岡崎一色線」…駅前の景観を形成する岡崎一色線に沿った景観軸
(岡崎駅前を連続するシークエンス)
- ⑤「六所神社参道」…岡崎一色線、参道、六所神社を結ぶ六所神社参道に沿った景観軸
(六所神社参道のビスタ、岡崎一色線のシークエンス景観要素となる参道入口の緑)



▲乙川・明代橋（乙川の景観軸）



▲乙川河川緑地（乙川の景観軸）



▲丘陵地の緑の固まり（丘陵地の緑の核）



▲明代橋から駅ビルと丘陵地の緑（明代橋線）



▲駅ビル及び駅前広場（岡崎一色線）



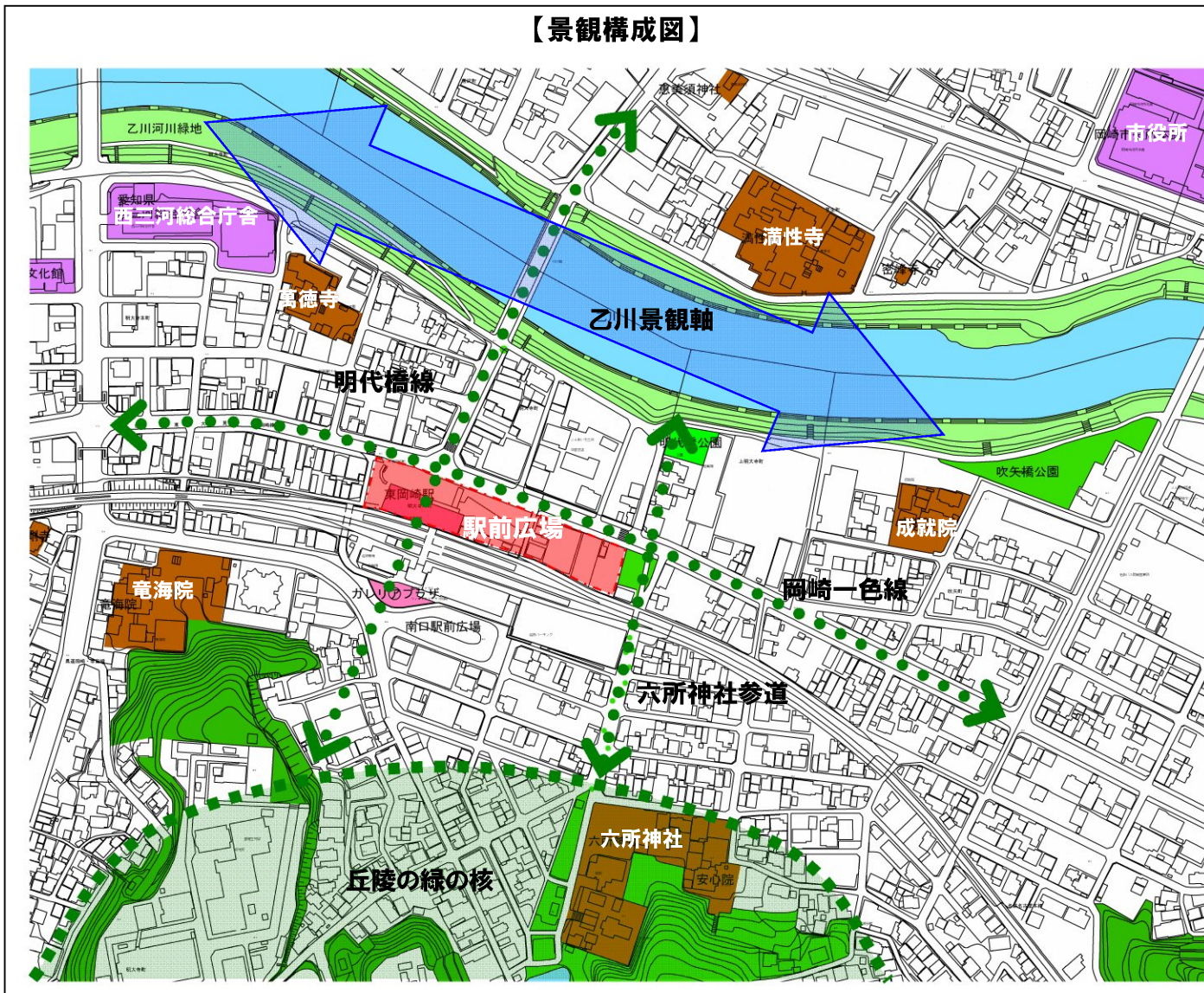
▲街路樹のある道路景観（岡崎一色線）



▲六所神社参道入口（参道・岡崎一色線）



▲参道の松並木（六所神社参道）



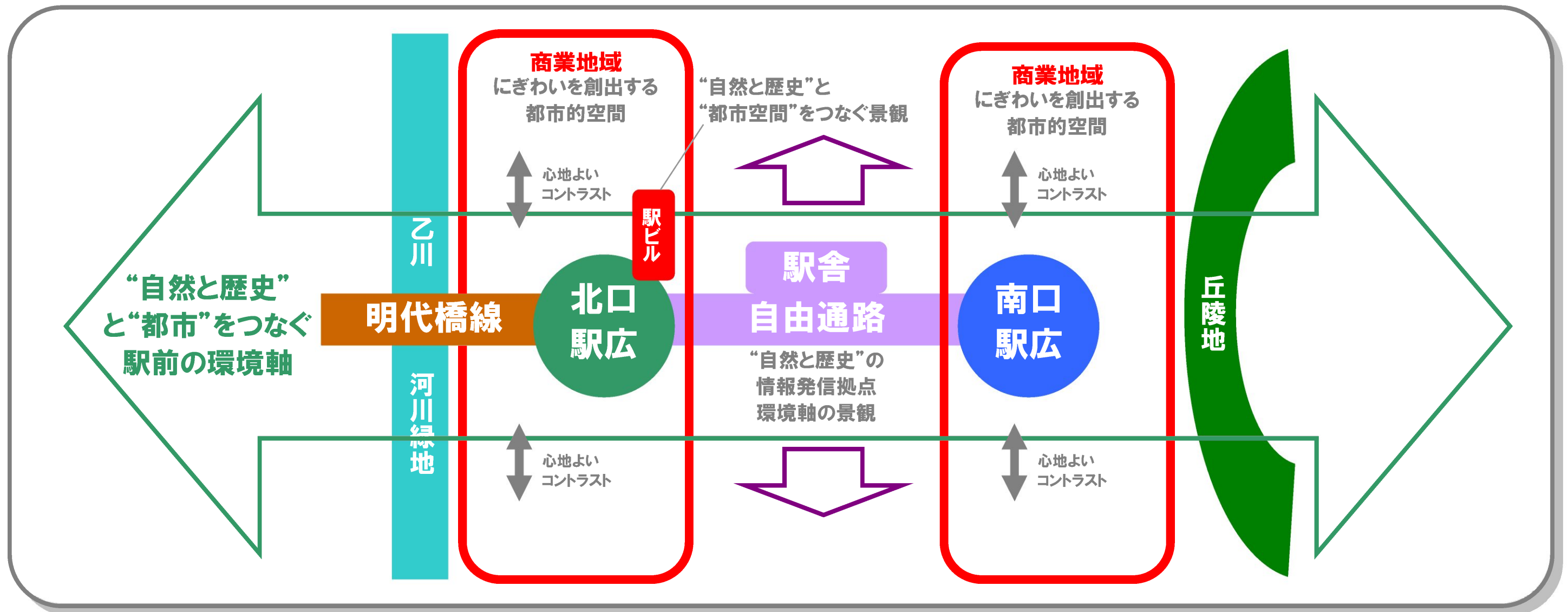
3. 景観形成の基本方針②「東岡崎駅及び駅前広場周辺」

【東岡崎駅周辺のまちづくりデザインコンセプト】

“自然・歴史・人”そして“やさしさ・美しさ・力強さ”を
なにげなく感じる快適な空間のあるまち

【東岡崎駅の景観形成の目標】

“自然・歴史”と“都市空間”のコントラストが心地よい「駅」

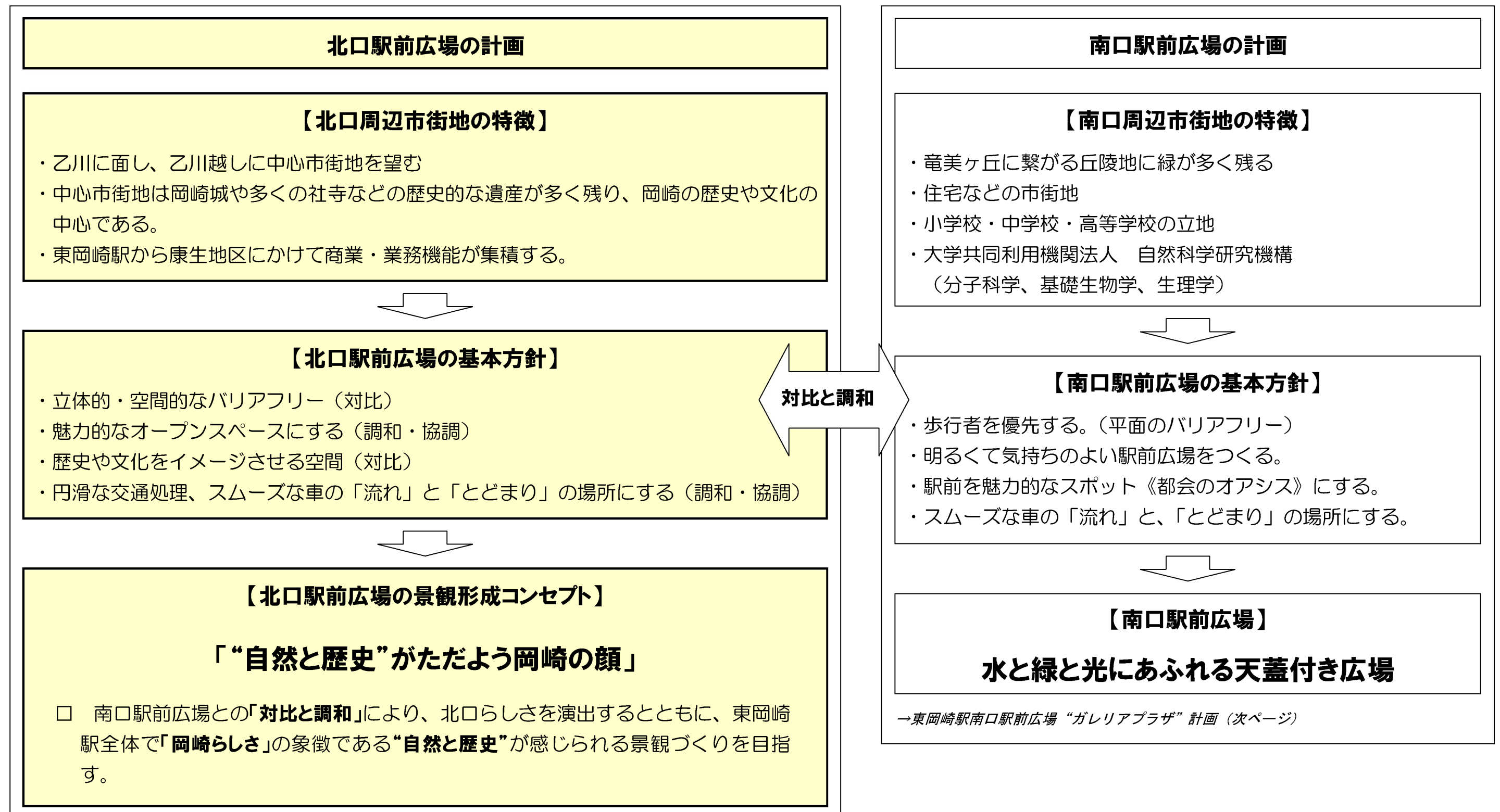


【駅舎・自由通路及び駅周辺の景観づくりのコンセプト】

駅舎・自由通路：駅前の環境軸の中心、地域内外への岡崎の“自然と歴史”の情報発信拠点として、南北の駅前広場と一体となった個性ある景観づくり

駅ビル及び周辺の商業ビル：環境軸の“自然と歴史”を活かした個性ある景観と、にぎわいを創出する都市空間をつなぐ心地よいコントラストをつくる景観づくり

4. 景観形成の基本方針③「北口駅前広場」



■ 東岡崎駅南口駅前広場“ガレリアプラザ”計画 ■

◆コンセプト

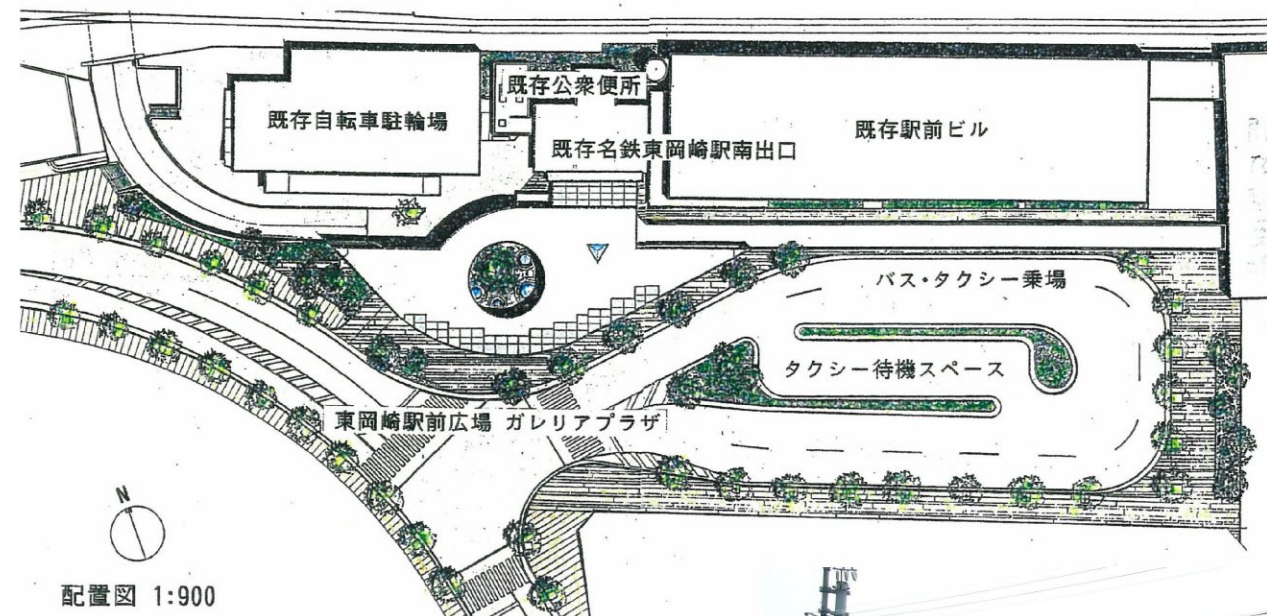
～ 水と緑と光にあふれる天蓋付き広場 ～

◆基本方針

- 歩行者を優先する。
歩行者は、多方向に、完全にバリアフリーの状態で移動できるようにする。
- 明るくて気持ちのよい駅前広場をつくる。
- 駅前を魅力的なスポット《都会のオアシス》にする。
「人々が心地よく通り抜ける」、「待ち合わせたり、ゆっくり休憩できる」、「必要な情報が常に得られる」、緑・水のあるオアシス的なところとする。
- スムーズな車の「流れ」と、「とどまり」の場所にする。

◆交通機能

- バス乗降場（路線バス、観光その他立ち寄りの団体バス、マイクロバス）
- タクシー乗降場所及びプール
- 一般車の送迎スペース

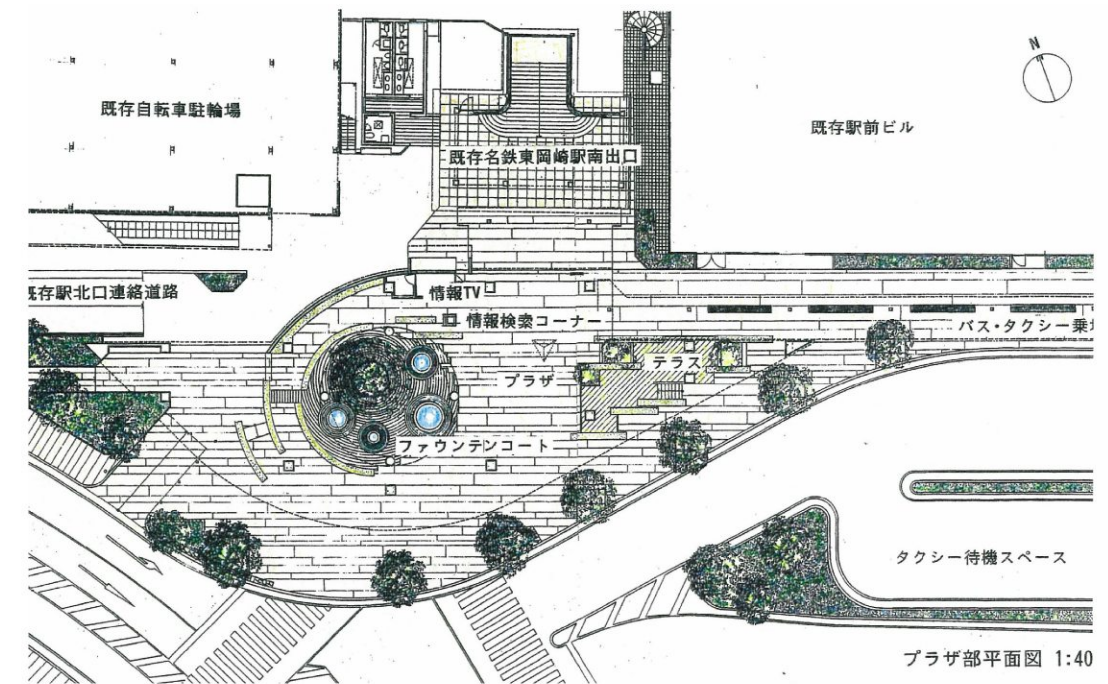


◆広場計画

- 大きな屋根・天蓋（キャノピー）のあるプラザ
- 大小4つの水盤を持つ「ファウンテンコート」
- 板張りの休憩テラス
- 市の観光地や地図などが検索できる情報コーナー



▲ガラスのタレ壁とルーバーの特徴的な外観



◆施設計画（素材等）

- 耐久性のある自然素材を適切に利用する。
プラザとコリドーの屋根裏の板貼り／木、木の風合いを持つベンチ／御影石の舗装と水盤



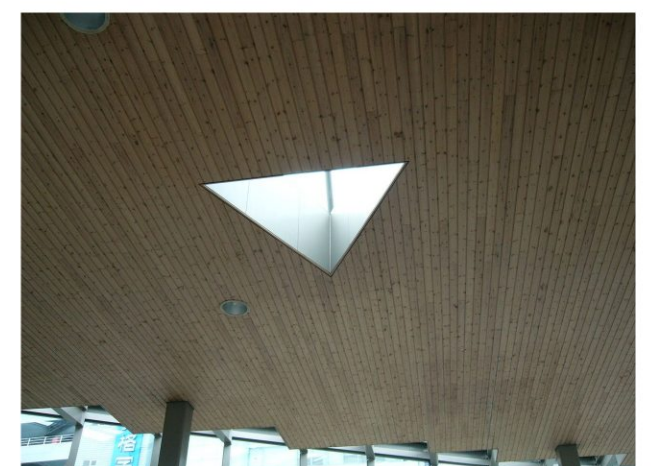
▲テラスの休憩広場



▲木のぬくもりを活かしたバスの待合場



▲光が差し込む明るいファウンテンコート



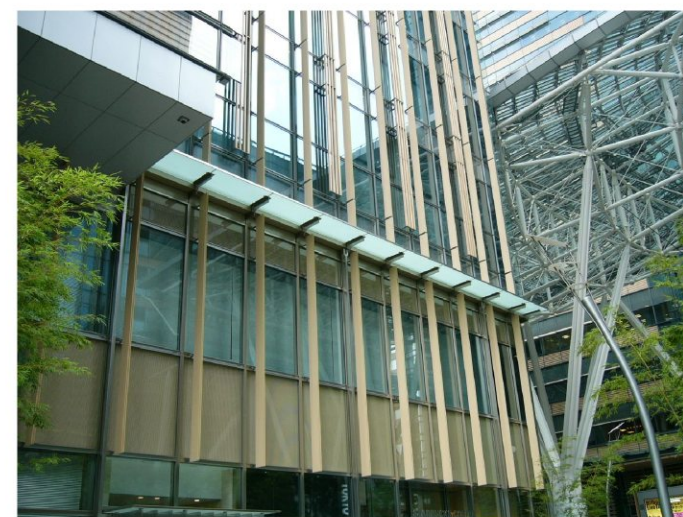
▲板貼りの天井と明りとり（トップライト）

■ 都市再生（再開発地区）における総合的な景観づくりの事例（東京ミッドタウン／東京都港区） ■

ヒノキの角材をイメージさせる格子の建築物内外の意匠への採用 / “和”の趣のある「竹」などをメインにした植栽 / 縦格子を強調したビルの外観



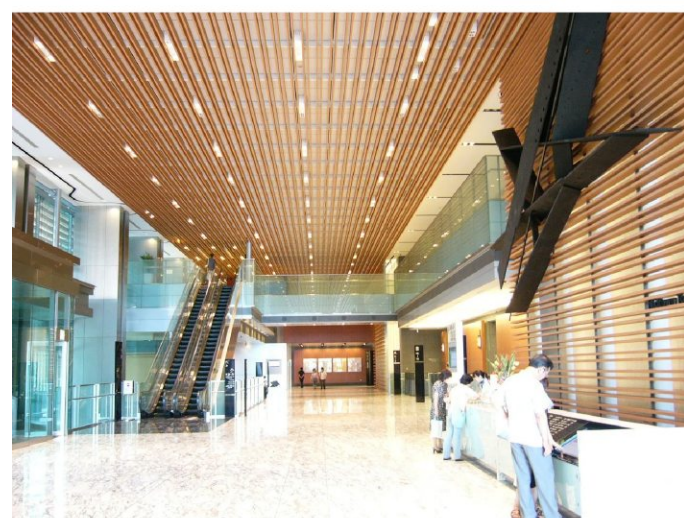
▲プラザ（屋根付き広場）前のもてなしの景観



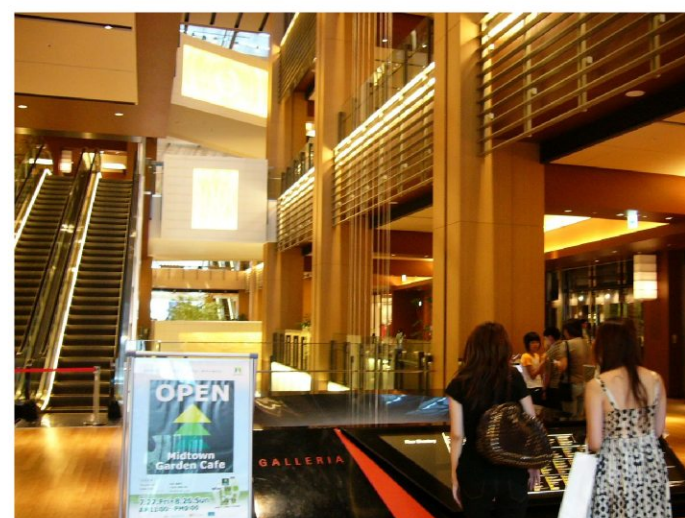
▲建物外観を修景する檜を連想される縦格子



▲ガーデンテラスの縦格子を活かした外観



▲ミッドタウンタワーエントランスホール内部



▲ガレリア



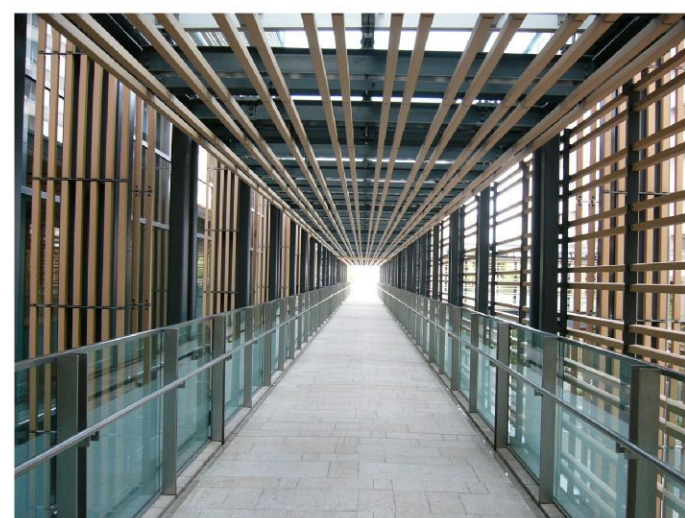
▲ガレリアの竹（オブジェ）



▲ガーデンテラスの縦格子とガラスフェンス



▲ホテル棟へ向かうペデストリアンデッキ（外観）



▲ホテル棟へ向かうペデストリアンデッキ（内部）



▲ガーデンテラスと檜町公園を結ぶペデストリアンデッキ



▲同左